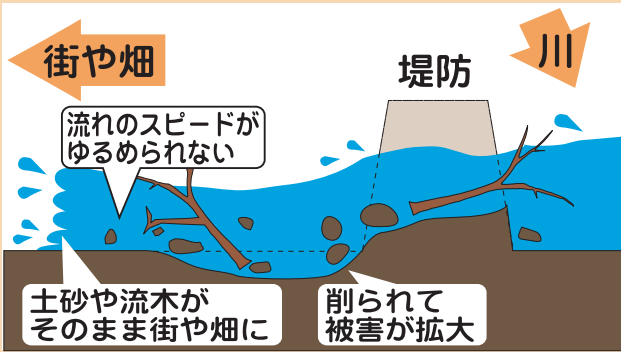


治水の杜づくり

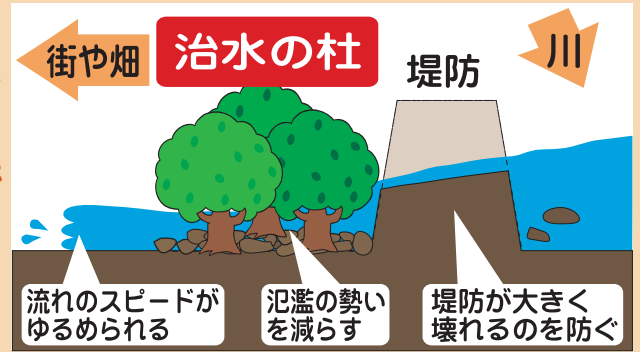
洪水の被害を少なくするために、堤防の近くに杜(森)をつくることを「治水の杜づくり」といいます。堤防に沿って十勝にある木の苗を植えて杜をつくることで、大きな洪水がきたときに、堤防が大きく壊れるのを防いだり、流れて来る水の勢いを抑えることができます。また、堤防沿いの杜は、点在する森と森をつなぐので、生き物の行き来にも使われます。

治水の杜がないと...



洪水時の水の流れの勢いを抑えられず、堤防が大きく壊れる危険性があります。

治水の杜があると...



洪水時の水の流れの勢いを抑え、堤防が大きく壊れることを防ぐ役割を果たします。

池田河川事務所では、猿別川の左岸側で治水の杜づくりをすすめています。地元の小学生の協力を得て、付近の森でタネを拾い、翌年育った苗を堤防沿いに植えています。



森でタネを拾う



ポットにタネを植えて苗を育てます



苗は生態学的混播法で植えます

砂利をひいた所をマルチングといいます。土が乾燥するのを防ぎ、雑草の侵入を防ぎます。



治水の杜

おおむね10年後

生態学的混播法

近くの森からタネを集めて苗を育てます。色々な種類の苗を植えると、その気候や土などの条件にあった丈夫な植物だけが生き残っていきます。このような自然の力を利用した森の再生方法です。

平成11年に開始して、十勝にあるシラカンバ、オニグルミ、ハルニシ、ミズナラ、エゾヤマザクラなど色々な種類の苗を植えています。